

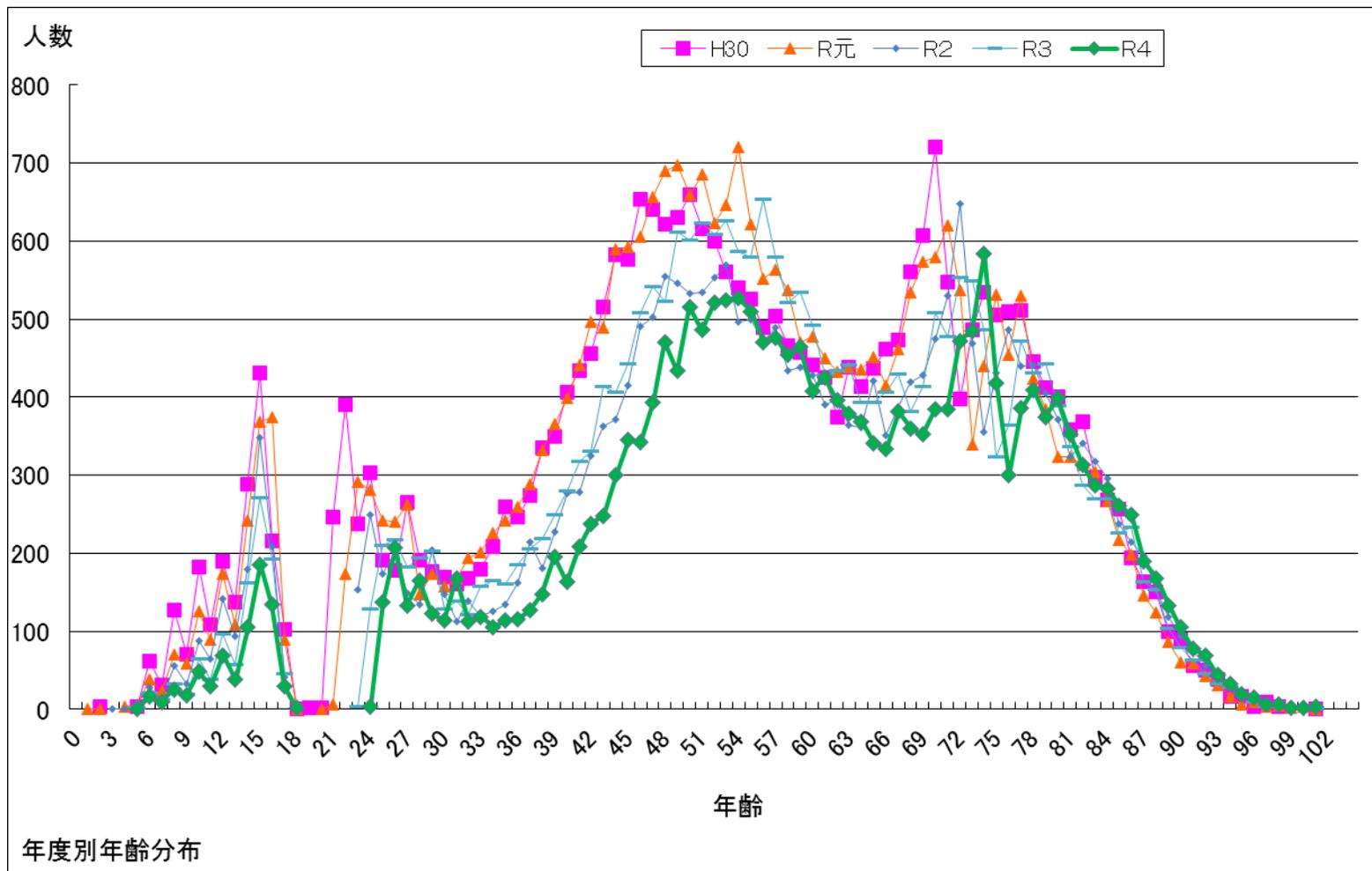
大気汚染医療費助成制度の患者データ年度推移

平成 30 年度から令和 4 年度の 5 年間の患者データについて、各項目別に年度毎の結果を比較した。

1 年齢分布

(1) 各年齢の年度別患者数

2

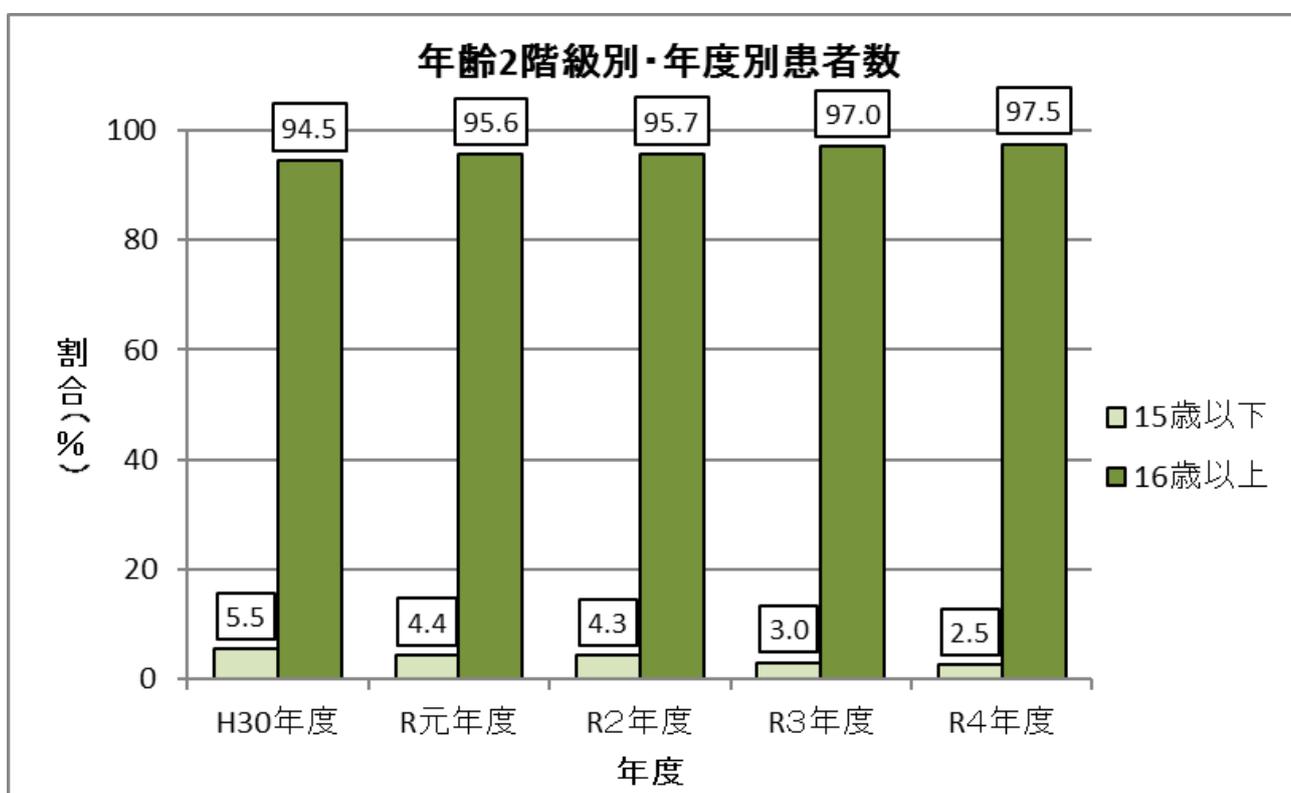


40～50 歳台の割合が高くなっている。

(2) 年度別の年齢階級別患者数割合

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	患者数	割合								
0-1歳	0	0.0%	1	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2-5歳	7	0.0%	11	0.0%	10	0.0%	2	0.0%	1	0.0%
6-11歳	580	1.9%	407	1.4%	284	1.1%	190	0.7%	148	0.7%
12-15歳	1,047	3.5%	891	3.0%	763	3.1%	587	2.3%	398	1.8%
16-19歳	321	1.1%	464	1.6%	250	1.0%	239	0.9%	166	0.8%
20-39歳	4,533	15.1%	4,253	14.3%	2,829	11.4%	2,869	11.2%	2,090	9.6%
40-59歳	10,936	36.5%	11,736	39.4%	9,147	36.9%	10,288	40.0%	8,094	37.0%
60-74歳	7,320	24.4%	7,187	24.1%	6,427	25.9%	6,788	26.4%	6,054	27.7%
75歳以上	5,226	17.4%	4,869	16.3%	5,112	20.6%	4,753	18.5%	4,909	22.5%
総計	29,970		29,819		24,822		25,716		21,860	

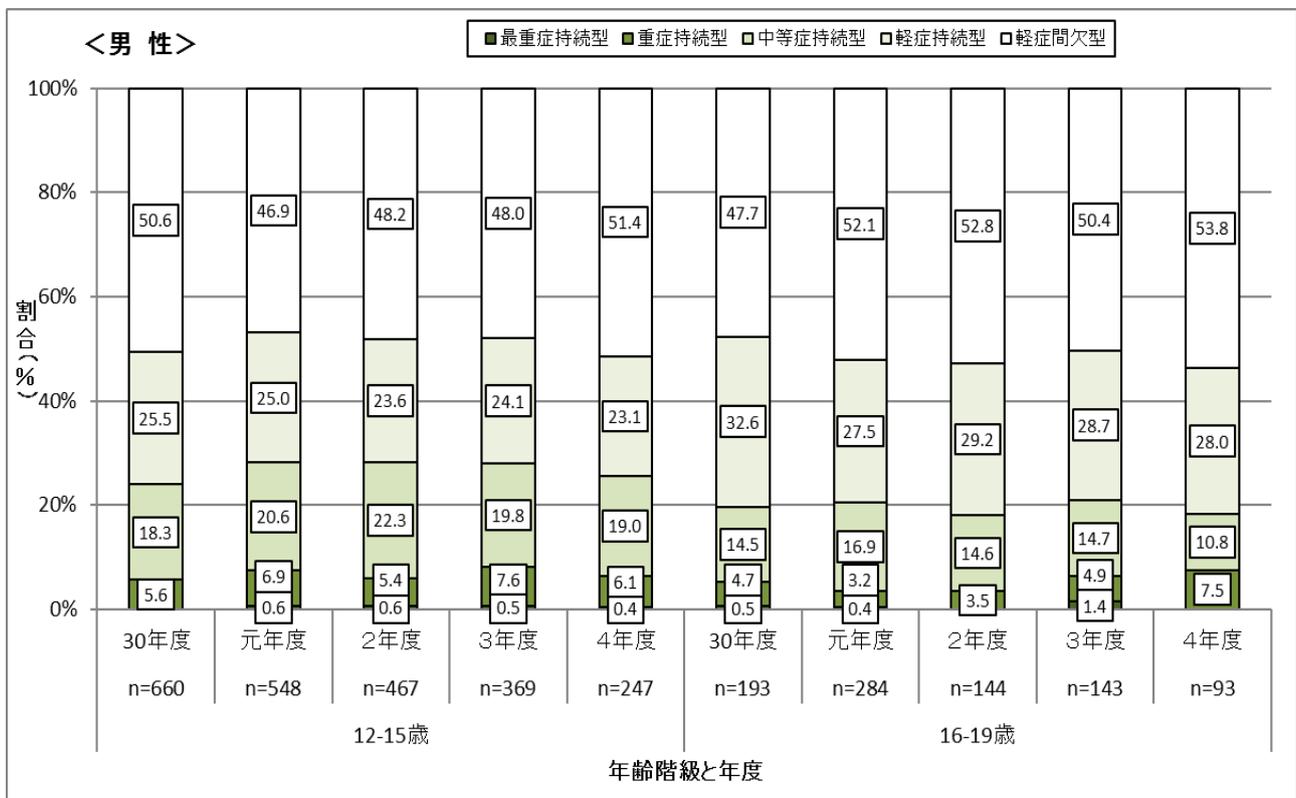
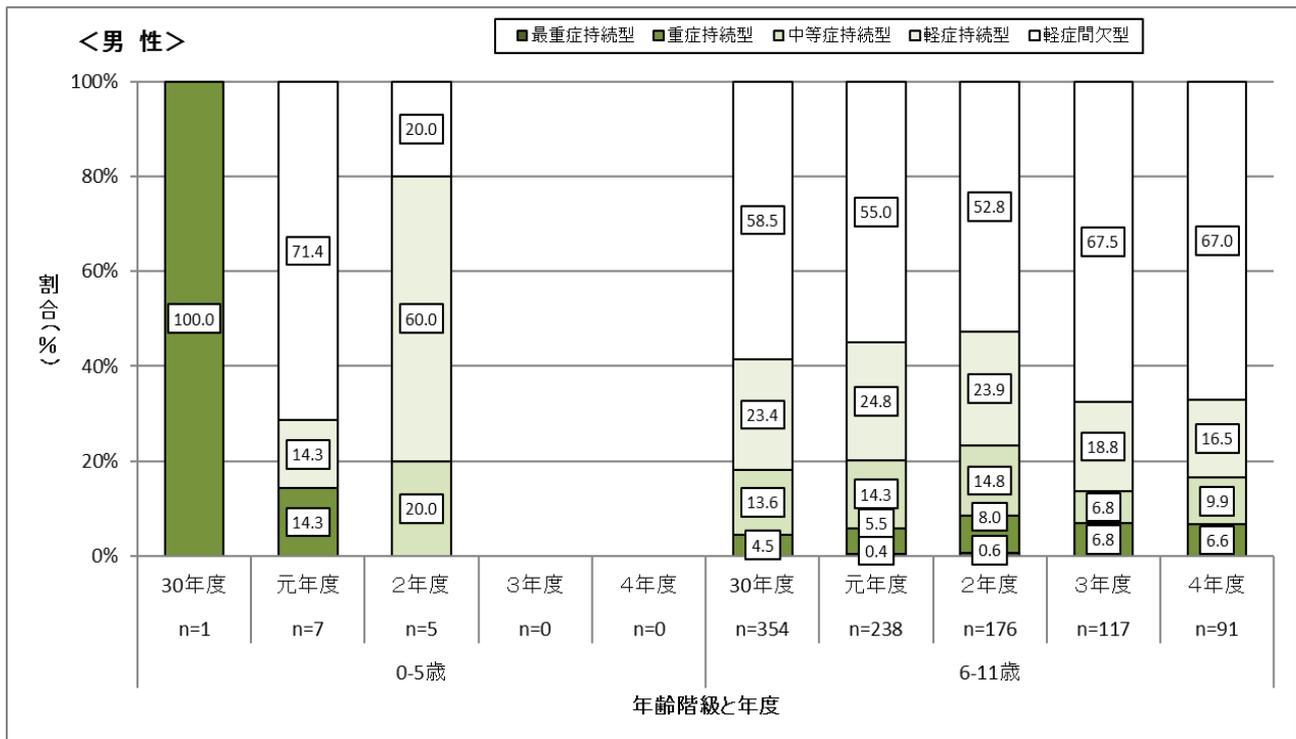
0歳から19歳までの患者割合は年々減少している。

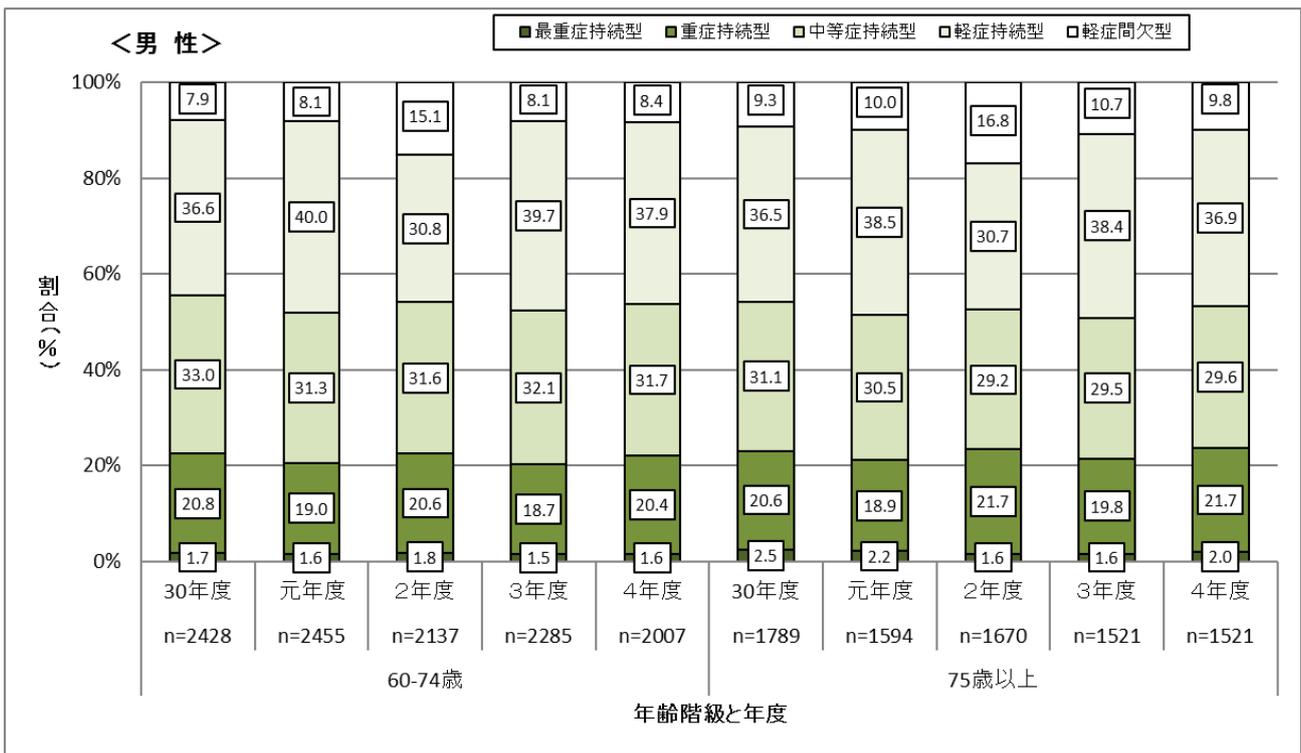
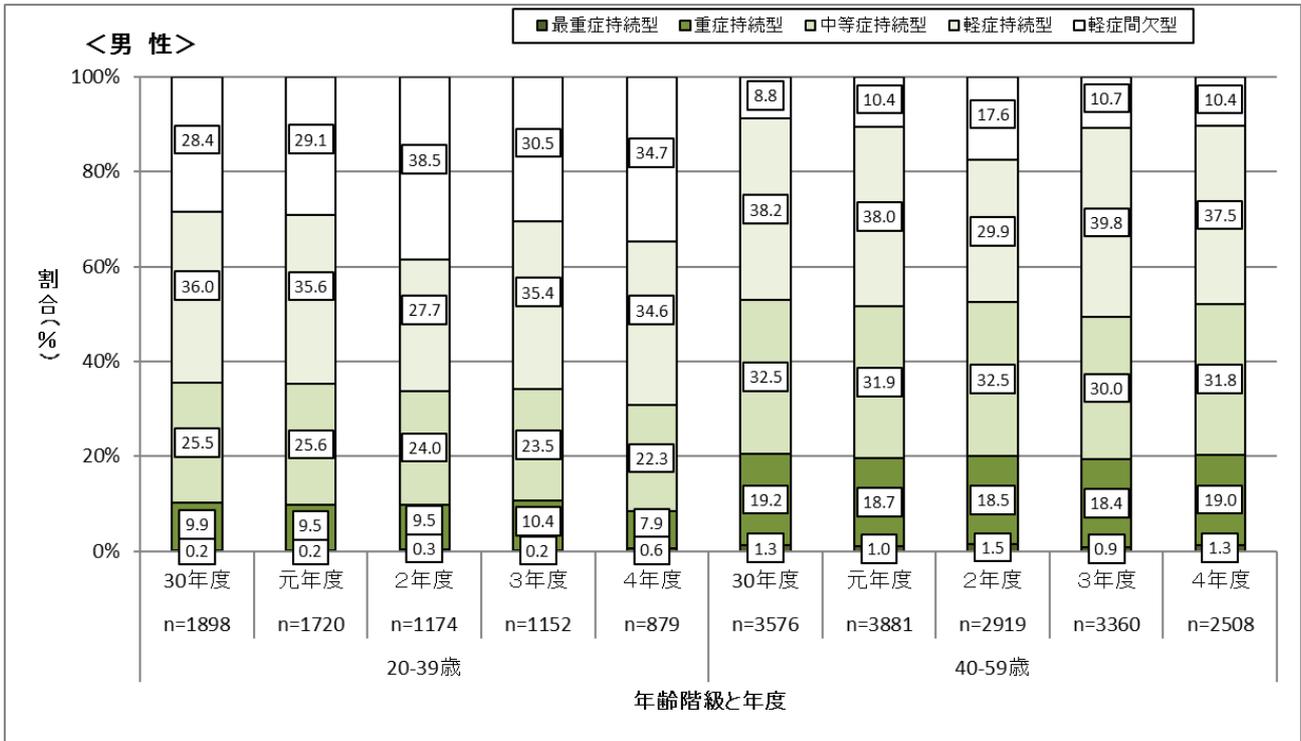


15歳以下の患者数割合は年々減少している。

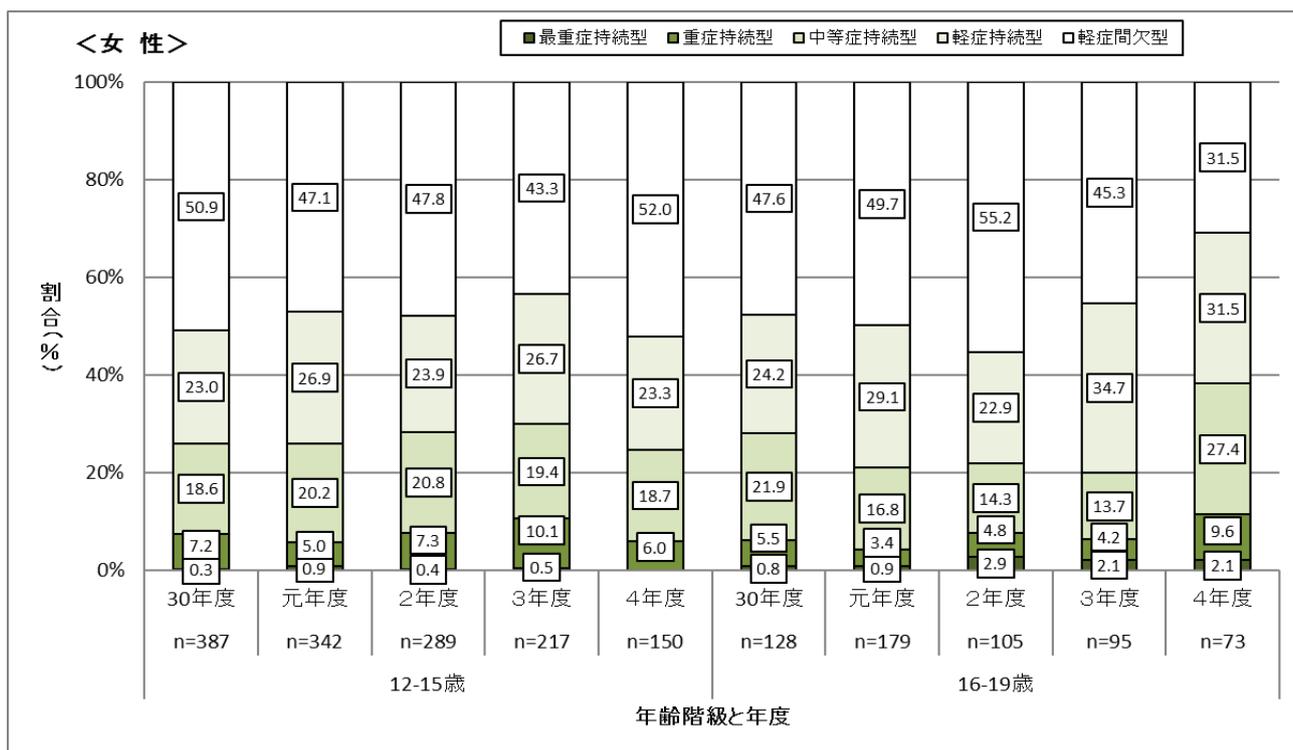
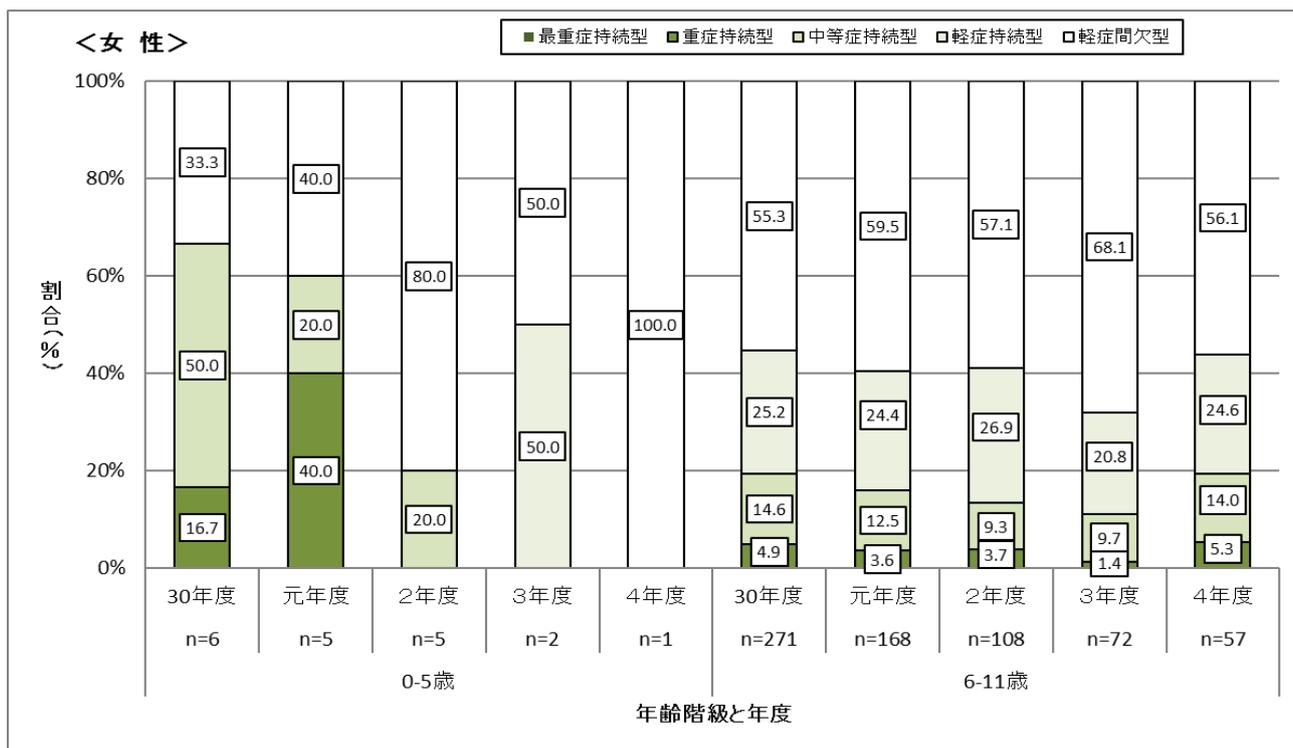
2 重症度分類

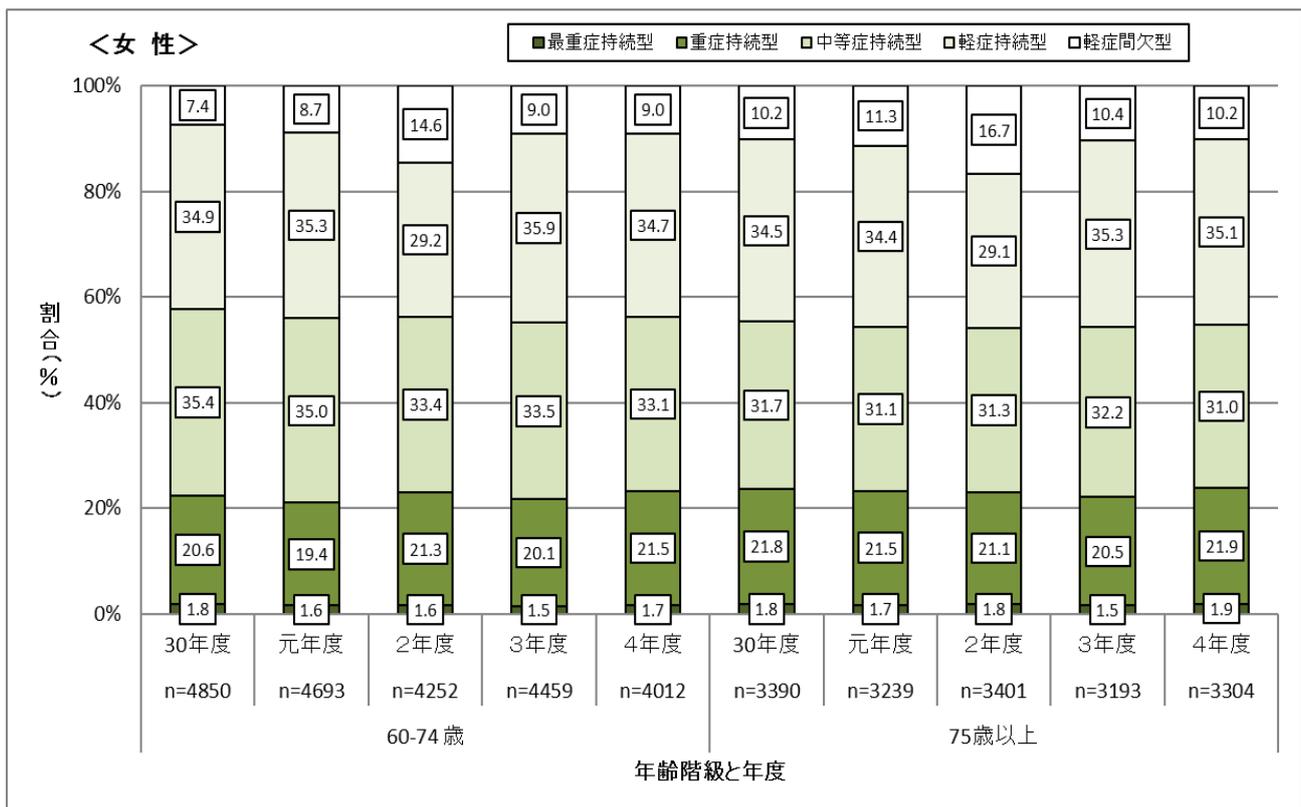
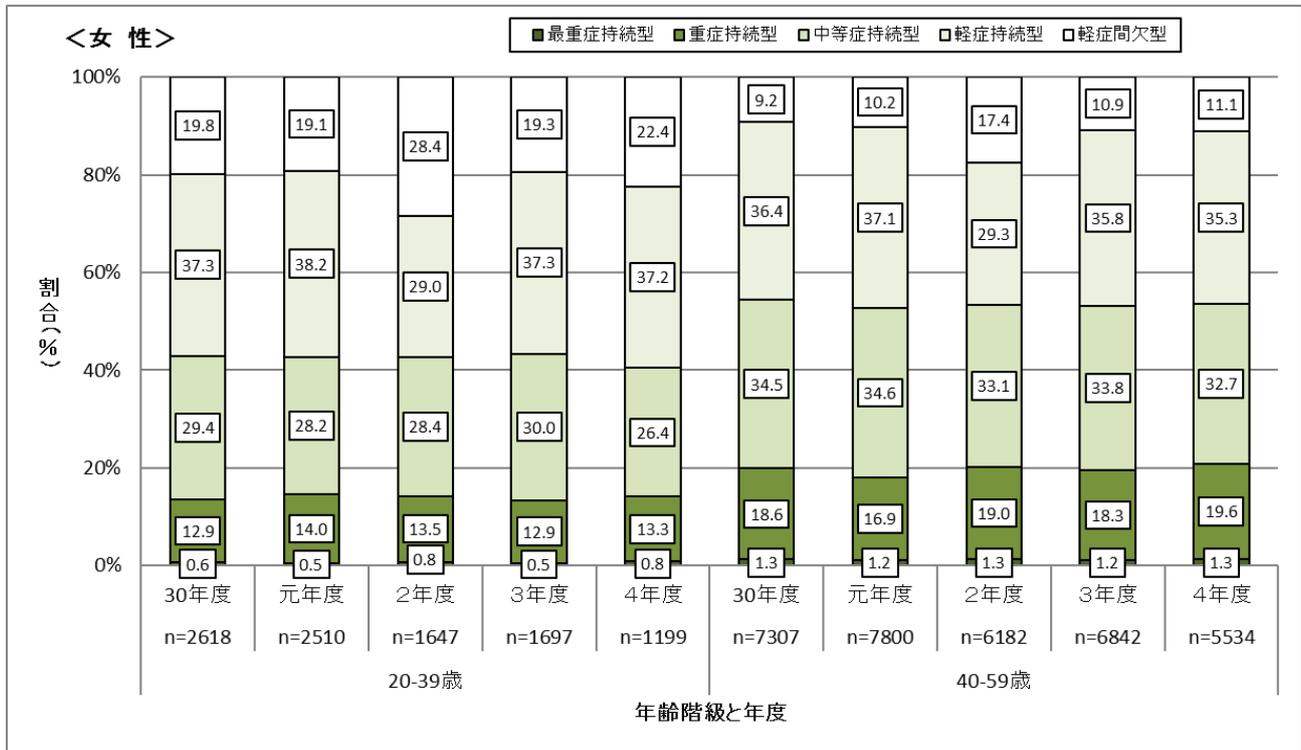
(1) 年齢階級別<男性>





(2) 年齢階級別<女性>





年度別年齢階級別の重症度分布について、男女ともにここ5年間で大きな変化はなく推移している。(n数が少数の「0-5歳」の階層を除く)

3 喫煙

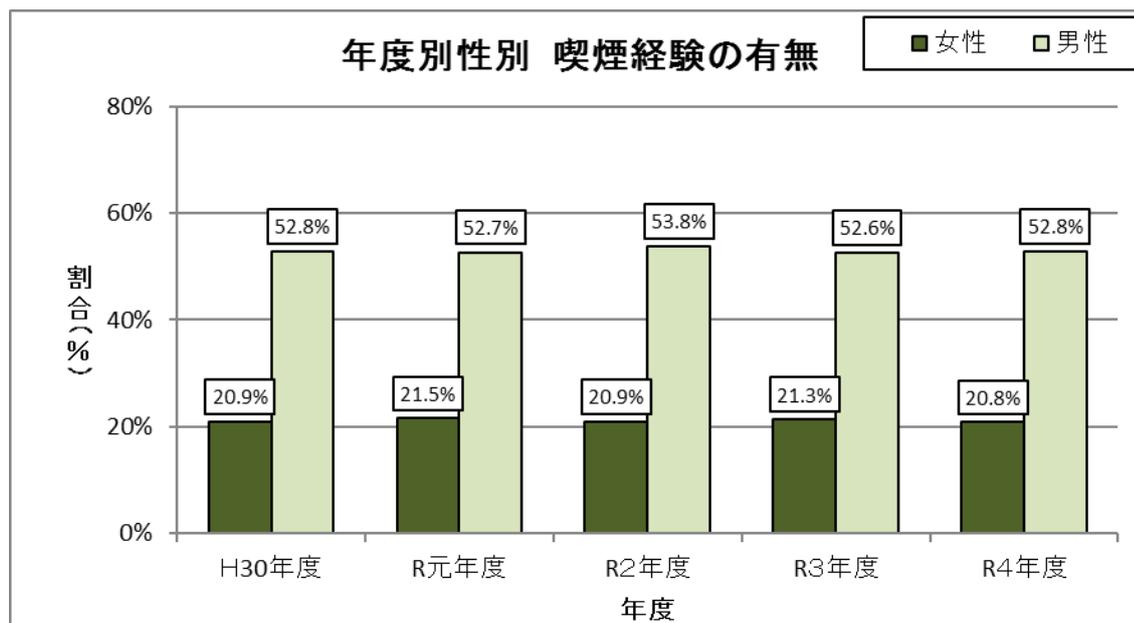
(1) 能動喫煙

a 全体

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
喫煙経験あり	31.9%	32.3%	32.0%	31.9%	31.4%

全体の能動喫煙経験「あり」の割合は、ここ5年間でほぼ横ばい傾向にある。

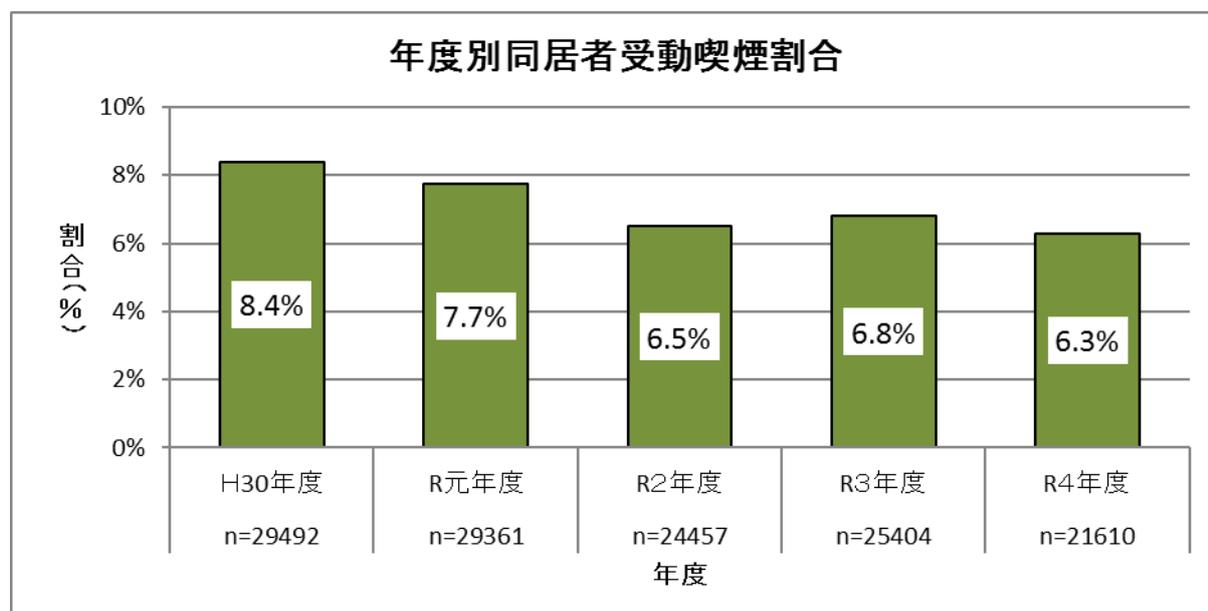
b 男女別



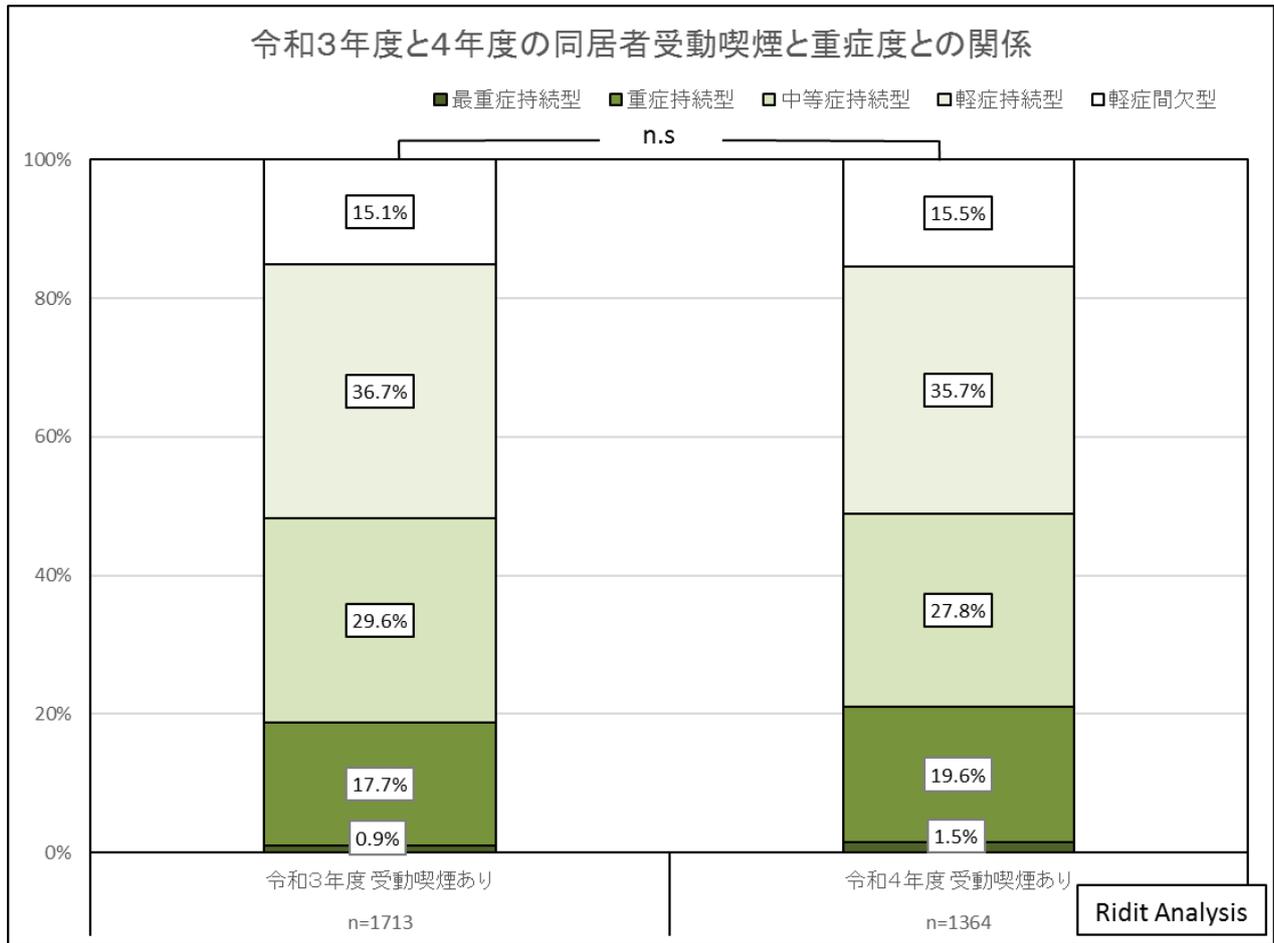
男女別で見た能動喫煙経験「あり」の割合は、男女ともにここ5年間でほぼ横ばい傾向にある。

(2) 受動喫煙

同居者の受動喫煙(主治医診療報告書より)

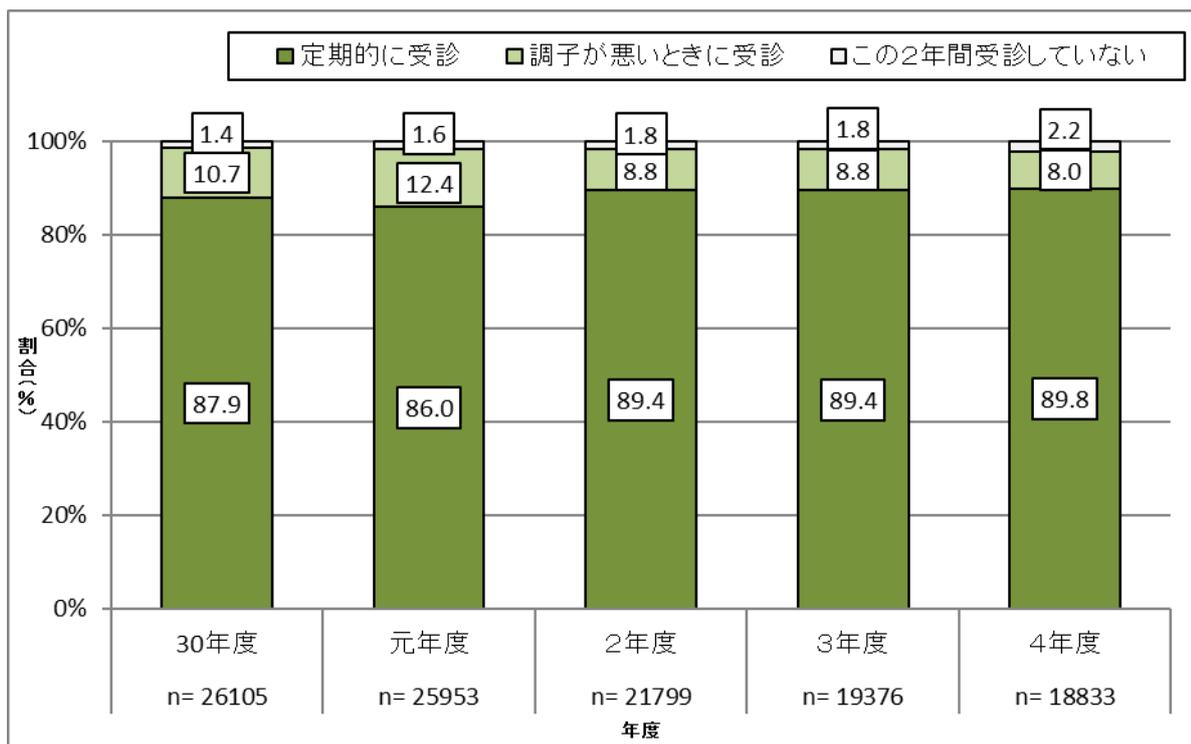


同居者受動喫煙割合はR2年度からは横ばい傾向である。

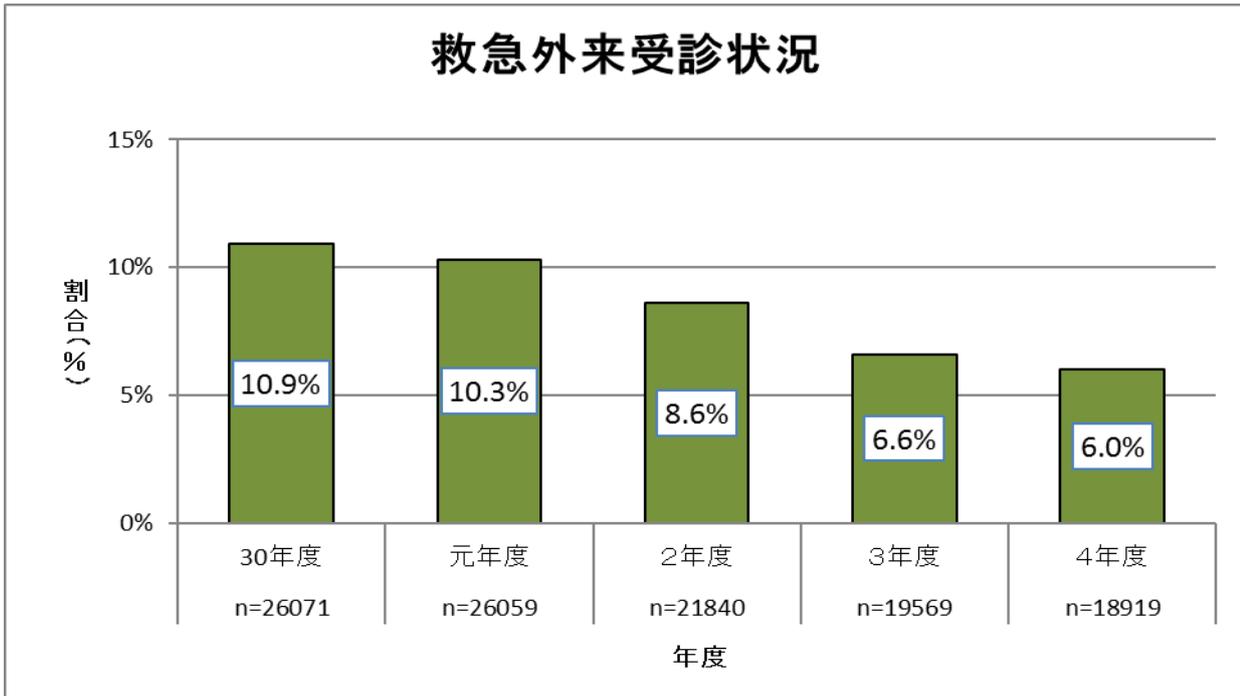


同居者の受動喫煙のある方について、令和3年度と4年度との重症度割合でリジット解析を行った結果、重症度での有意な差は認められなかった。

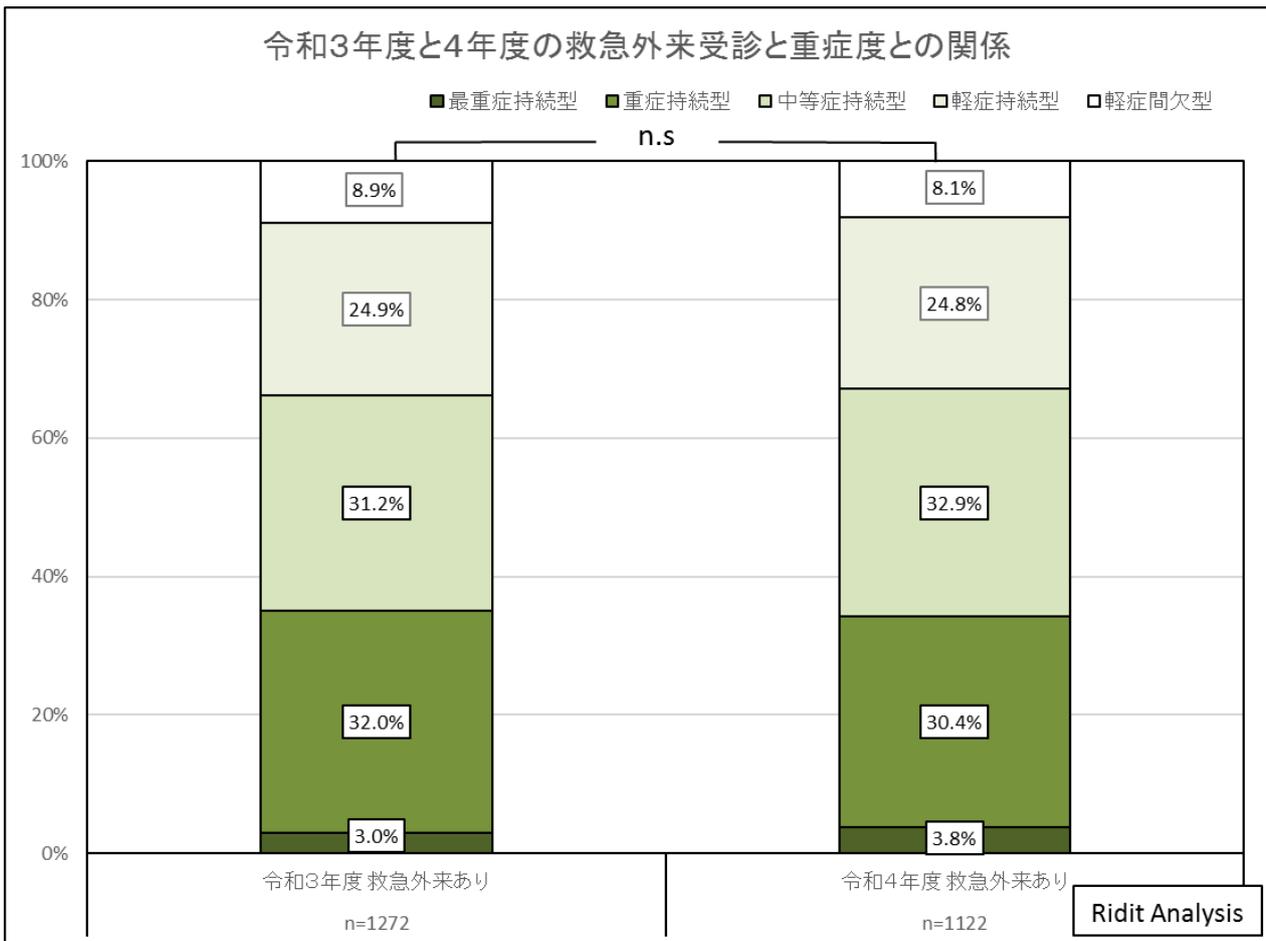
4 受診状況



5 救急外来受診状況

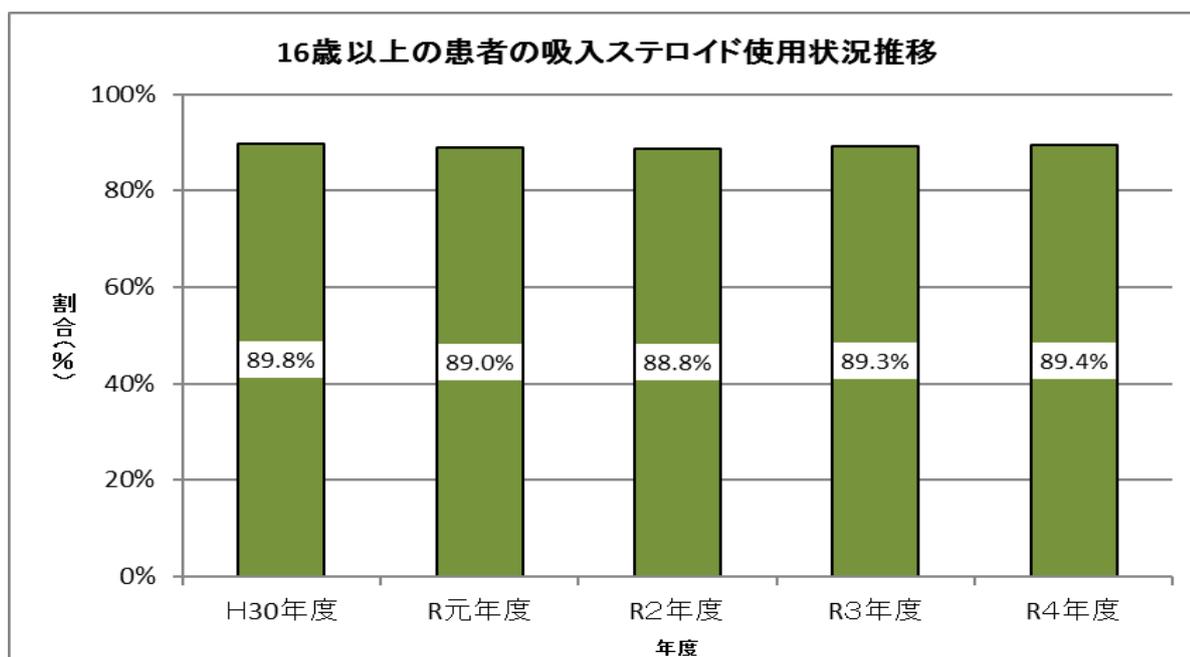
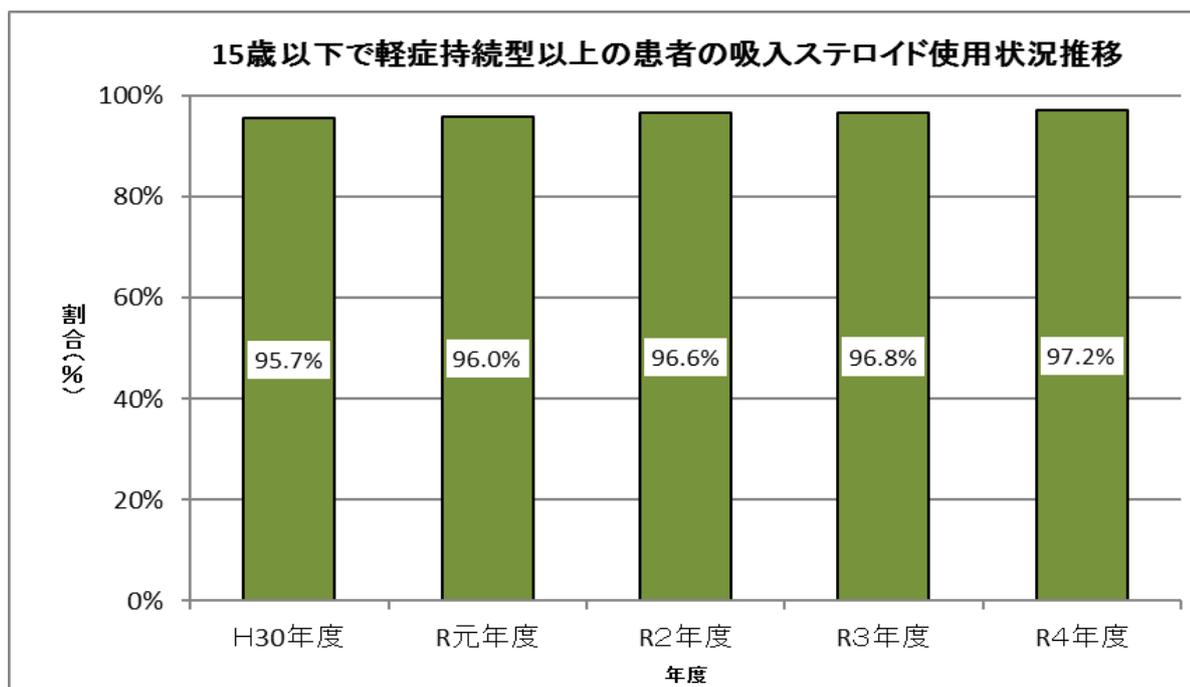


救急外来受診の割合は減少傾向にある。



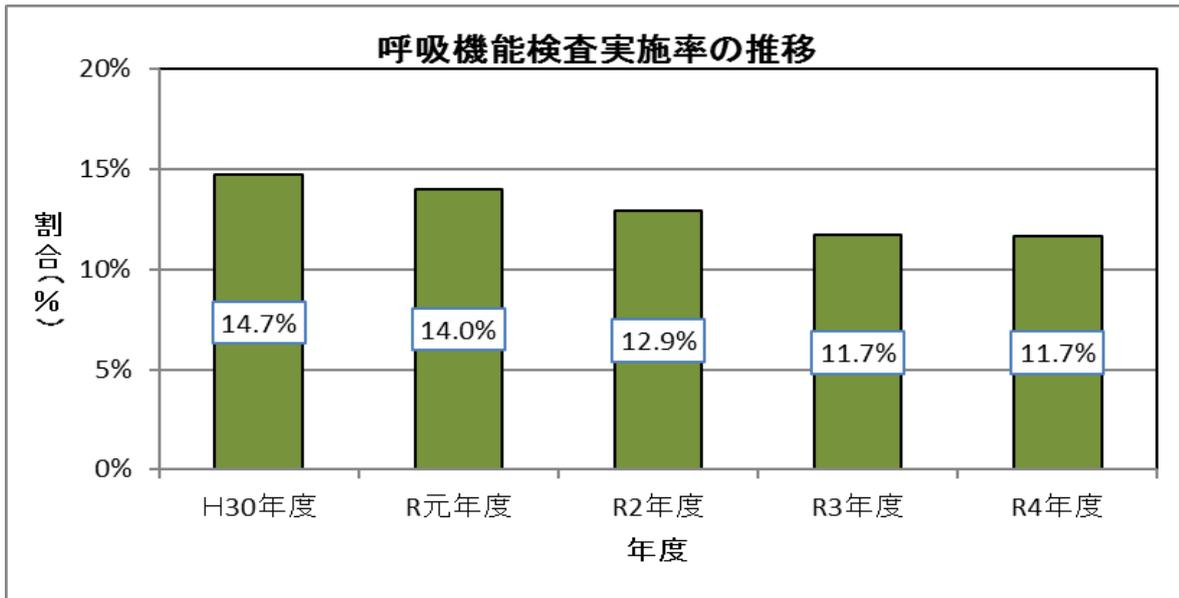
救急外来を受診した方について、令和3年度と4年度との重症度割合でリジット解析を行った結果、重症度での有意な差は認められなかった。

6. 治療薬（吸入ステロイド薬）



吸入ステロイド薬使用状況については、ここ5年間でほぼ横ばい傾向にある。

7. 呼吸機能検査実施率の推移



呼吸機能検査実施割合はR3年度とR4年度が同じ値であった。